

平成 30 年度岩手県三陸海域研究論文知事表彰事業受賞者の決定について

【要旨】

県では、本県三陸沿岸への研究人材の集積や海洋・水産研究の活性化を図るため、平成 21 年度から若手研究者を対象に、三陸をフィールドとした研究論文を募集・表彰する「岩手県三陸海域研究論文知事表彰事業」を実施しています。

この度、平成 30 年度の受賞者を決定しましたので、お知らせします。

1 受賞者及び受賞論文について

(1) 岩手県知事賞（2 件）：岩手県三陸海域を対象とした海洋研究として優れた内容のもの

部門	氏名	所属	論文タイトル
学生の部	こだま まさふみ 小玉 将史	東京大学大気海洋研究所	大槌湾の藻場に生息するヨコエビ類の群集動態
一般の部	やまだ みわ 山田 美和	岩手大学 農学部応用生物化学科	大船渡湾から単離した微生物によるマンニトールを原料としたバイオプラスチックの生合成

(2) 特別賞（3 件）：今後の研究継続により、更なる成果が見込まれる研究又は独創性が高い内容のもの

部門	氏名	所属	論文タイトル
学生の部	あべ たかあき 阿部 貴晃	東京大学大気海洋研究所	岩手県に回帰するサケ親魚の温度順応に関する研究
学生の部	かたよせ ごう 片寄 剛	北里大学大学院 海洋生命科学研究科	岩手県越喜来湾のアマモ場における仔稚魚の出現動態と東日本大震災の影響
一般の部	はやかわ じゅん 早川 淳	東京大学大気海洋研究所	大槌湾におけるカモメ類によるエゾアワビ捕食の季節変動

2 審査経過

(1) 応募状況

10 名（学生の部 4 名、一般の部 6 名）

(2) 岩手県知事賞・特別賞の選考

専門家及び有識者による選考委員会（別添名簿）において、論文及び口頭発表の審査を行い、受賞者を決定した。

第一次選考会（書面審査）9 月 14 日（金）

第二次選考会（口頭発表審査）10 月 23 日（火）

【担当 科学技術担当 吉田 内線 5252】

○論文の概要について

1 岩手県知事賞（2件）

【学生の部】

氏名	所属	論文タイトル
小玉 将史	東京大学大気海洋研究所	大槌湾の藻場に生息するヨコエビ類の群集動態
<p>【論文要旨】</p> <p>三陸沿岸の藻場に生息するヨコエビ類の群集動態を解明するため、本海域に広く優占する3種の植物群落を周年調査した。その結果、ヨコエビ類の群集構造やその変動様式は、植物群落ごとに異なり、さらに同じ群落内でも林冠と林床で異なることを明らかにした。群集動態の相違は、植物群落間や林冠・林床間における環境の差異に起因すると考えられた。加えて、本調査によって三陸沿岸から未記載種や未記録種のヨコエビ類を多数発見した。</p>		

【一般の部】

氏名	所属	論文タイトル
山田 美和	岩手大学 農学部応用生物化学科	大船渡湾から単離した微生物によるマンニトールを原料としたバイオプラスチックの生合成
<p>【論文要旨】</p> <p>廃棄海藻を利用したバイオプラスチックの微生物合成を目指し、本研究では、マンニトールを単一炭素源としポリ(3-ヒドロキシブタン酸) [P(3HB)]を合成する Burkholderia sp. AIU M5M02を見出した。さらに、本菌を用いてP(3HB)を高蓄積する培養条件を決定した。また、本菌はマンニトール以外の炭素源を用いた際もP(3HB)を合成し、多様な原料をP(3HB)合成に利用できると示唆された。</p>		

2 特別賞（3件）

【学生の部】

氏名	所属	論文タイトル
阿部 貴晃	東京大学大気海洋研究所	岩手県に回帰するサケ親魚の温度順応に関する研究
<p>【論文要旨】</p> <p>本研究では、秋遡上群主体の北上川と冬遡上群主体の甲子川のサケの温度特性を代謝速度によって評価し、順応様式を明らかにした。高水温期に回帰する北上川のサケは、甲子川のサケと比較して高い温度に順応し、集団ごとの温度特性はその集団の産卵生態を反映したものであることが考えられた。本研究によって示されたサケ2集団の温度特性は、今後のサケ資源の温暖化に対する応答予測の基盤情報となることが期待される。</p>		

氏名	所属	論文タイトル
片寄 剛	北里大学大学院 海洋生命科学研究所	岩手県越喜来湾のアマモ場における仔稚魚の出現動態と東日本大震災の影響
<p>【論文要旨】</p> <p>津波によりほぼ流失した越喜来湾浪板海岸のアマモ場が、残存地下茎の伸長等により経年的に回復したことが明らかとなった。このアマモ場では、震災前より仔稚魚の出現種数が減少したが2015年には震災前と類似した組成となった。定住種には、アマモ場の回復に伴って増加した種も見られたが、復興工事等により減少した種もあった。また優占種の組成も変化した。津波等の影響によるものと各海流の盛衰等によるものとに分けられた。</p>		

【一般の部】

氏名	所属	論文タイトル
早川 淳	東京大学大気海洋研究所	大槌湾におけるカモメ類によるエゾアワビ捕食の季節変動
<p>【論文要旨】</p> <p>大槌湾赤浜に位置する防波堤において、2016年4月から2018年8月まで、カモメ類の摂餌残骸を継続的に採集し、カモメ類による底生無脊椎動物への捕食、特にエゾアワビへの活発な捕食を世界で初めて明らかにした。カモメ類は底生無脊椎動物の中でエゾアワビを最も多く捕食していること、水面から水面下のエゾアワビの位置を特定して捕食すること、エゾアワビの捕食は冬季から春季にかけて特に活発であることが本研究で示された。</p>		